

アフガニスタンチャリティカレンダー  
**AFGHANISTAN**  
 Support Calendar 2011

— 未来だけを信じて —

2010年10月発売の「2011年版アフガニスタンチャリティカレンダー」は、4,350部を販売し、1,935,880円の支援金を作ることができました。送金総額はこの5年間で約1,400万円になりました。みなさまのご協力、本当にありがとうございます！これからも応援を、どうぞよろしくお願いいたします。

# 今回支援金 193万円・総額 1,400万円



大きくて見やすい壁掛け型  
 ・A2変形版(見開き幅960mm×横420mm) ・フルカラー  
 □定価 1,500円(税込)



コンパクトで使いやすく  
 かわいい!卓上型

・専用コルクボード 幅170mm×高さ120mm×厚み6mm  
 ・本体カード 幅180mm×高さ110mm (ハガキよりひとまわり大きめ)  
 ・フルカラー  
 □定価 1,000円(税込)  
 \*すでにコルクボードをお持ちの方など、本体カードのみご購入の場合は1個につき100円エコ割引♪

## クレジットカード月次決済への切り替えをお願いいたします。

このたび新システム導入により、ほとんどのクレジットカードで、月々の決済が可能になりました。会費・寄付・ネットショップのお支払い・イ

ベント参加費などのクレジット決済ができます。事務手続きの簡略化にもつながるため、ぜひ、クレジットカード決済

への切り替えをお願いいたします。  
 ●パソコン・携帯電話・スマートフォンからご利用いただけます。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

## サポーターを募集しています!

あなたもサポーターになりませんか!?  
 月々300円で、活動を支えてください!

会費は1口300円/月です。全額がアフガニスタンMMCCに送金され、現地の活動に役立てられます。サポーターには、現地の様子を伝える「MMCCニュース」をお届けします。また、カレンダーやポストカードといったサポートグッズのご紹介や、関連イベントのご案内も一緒にお届けいたします。ニュースの発行や、送金手数料、郵送料は「みんなの夢の音楽隊」が負担しています。

いものにするために、今を大切に楽しむことが仕事です。そしてその楽しさを、よりたくさんの子どもたちと共有することが、彼らの役割です。そんな子どもたちをサポートすることが、MMCCをはじめ、みんなの夢の音楽隊の役目だと思います。今後とも、みなさまのご支援・ご協力・ご声援♪どうぞよろしくお願いいたします。

理事長:今川夏如

<http://yumeuta.com>

## MMCCニュースの配布先を紹介してください。

MMCCニュースの配布先を紹介してください♪このニュースを、会員の方だけでなく広く一般のみなさまに読んでいただき、この活動を支える仲間をひとりでも多く増やしていきたいと考えています。ご親戚や、お友達に紹介したいという場合や、イベントで配布したいという場合でも、お気軽に事務局にお問い合わせください。



## NPO法人みんなの夢の音楽隊 メンバー募集中

NPO法人みんなの夢の音楽隊は、会員の皆様の会費によって運営されています。私たちの活動に賛同し、協力してくださるメンバーを募集しています!

- 正会員(総会での議決権を持ちます) 年会費1口10,000円または月会費750円
  - 個人賛助会員(ゆめうたサポーター) 年会費1口 3,000円または定期定額寄付250円以上
  - 団体賛助会員(ゆめうたサポーター) 年会費1口10,000円
  - MMCCサポーター 年会費1口 3,600円または月会費300円
  - ゆめうたサポーター 月々100円以上の定期定額寄付(クレジットカードによる月々自動引き落とし)のご登録
- ※会費・ご寄付のお支払いは、年払い一括または、クレジットカードによる月々の自動引き落としがご利用いただけます。  
 ※会員・寄付者のみなさまには、不定期(年2~4回)でゆめうたニュースをお届けします。

お問い合わせ TEL048-783-5771 FAX048-783-5772 info@yumeuta.com 郵便振替 00160-8-352345 特定非営利活動法人みんなの夢の音楽隊

MMCCニュースに関する感想・アイデア・情報等をお寄せください。お待ちしております。



# NEWS VOL.11

特定非営利活動法人 みんなの夢の音楽隊  
 〒338-0811 さいたま市桜区白銀 202-19  
 TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772  
 発行人 JAPAN-MMCC 代表 今川夏如  
 不定期発行(年2~3回)

## Afghanistan Mobile Mini Circus for Children

2011年7月5日 (Vol.11)

あなたが支える子どもから、子どもたちへ“夢”と“笑い”と“教育”を届ける!

## Happy Afghan New Year 1390



▲ペルシャ圏の新年を祝うお祭り「ノウルーズ」のセレモニーにて

MMCCとAECCでは、カブール、ヘラート、バーミヤンの3つの地方都市にある常設のセンターで、15歳以上の子どもたち15人がスタッフとなり、地域の学校や団体で何百人もの子どもたちのために、毎週ワークショップを開催しています。また、他の地域でも常設センターを計画中です。2010年はバーミヤンセンターの発展に力を入れ、バーミヤン州の村々に効果的な活動を展開しています。バーミヤンの活動から始まったサーカス用コンテナは今、ゴール州(ヘラートとバーミヤンの間あたり)にあります。ゴールではすでにMMCC/AECCのアーティストになった15歳前後の子どもが公演に訪れたことがありました。2010年春には、新たにもっと大きなコンテナがカブールのカルチャーハウスで組み立てられ、北部のパダクシャン州に運ばれました。そして、継続的な活動を展開すべく準備中です。自然豊かなこの地域には、2004年に私も行ってきます。暖かい気候という聞こえが良いですが、夏は灼熱と言っていい東部のジャララバード州では、真冬でも毎週ワークショップと公演を行っています。今年カブールとヘラートでも開催予定です。たくさんあった2010年の成果をほんの少し紹介しました。2011年があなたにとって幸多く、楽しい年となりますように。  
 MMCC/AECCスタッフ 一同

## 緊急支援にご協力をおねがいいたします。

2011年7月現在、複数の大きな支援団体の撤退により、年間130,000米ドル(日本円で約1000万円)の事業資金を削減されてしまいました。継続がもっとも重要と考えている私たちにとって、とても困難な状況が起きてしまいました。活動の規模がまだ小さかったヘラートの事務所を閉鎖し、スタッフも中心的なメンバー約20人を残して、30人以上を解雇せざるを得ない状況になりました。新たな事業スポンサーを探しつつ、国連機関の事業なども委託を受けながら、最低限の活動を継続していく必要があります。そこでカブールのセンターに所属する技術の高い子どもサーカスチームの食事代など、当面の数ヶ月間をしのぐための緊急支援を日本から行います。2006年に

来日したメンバーは、今は子どもたちの指導者になり、ジュニアスタッフとして活動しています。私たちに、今、できることがあります。彼らは、自分たちの力で今まで様々な困難を乗り越えてきました。一部の愚かな大人たちのせいで、長年戦争に巻き込まれていたこの国で、ようやく立ち上がった彼らの活動を、ほんの少しの期間、私たちが、ちょっとがんばって支えてあげましょう。「数ヶ月支えてもらえれば、その間に自分たちでどうにかする!」と、現地からは決意のメッセージが届いています。今まで助けて欲しいと言ったことのない現地スタッフが、初めて、今、支援が欲しいと言ってきました。みなさまのご協力を、ぜひ、お願いいたします。JAPAN-MMCC代表 今川夏如



## 情報発信・メディア プログラム



子どもたちのメディアプログラムでは、番組制作からパソコンによる編集作業など、幅広く講座を開設していましたが、2010年は子どもラジオ制作の活動が活発になり、ラジオ放送の設備も整いました。さらに映像制作スタジオも新たに作られました。秋には「Zange Tafrih(エンターテインメントタイムの意)」というタイトルの、クオリティの高い子ども雑誌を初めて刊行しました。コンテンツ作り、取材活動、デザイン構成、記事内容まで、すべて子どもたちが担当しました。専門技術を持つMMCCの協力者がすべてボランティアで監修し、発刊までをサポートしてくれました。この雑誌は1万部印刷され、少しずつ全国の子どもたちの手に渡っています。そしてまもなく、次号が刊行される予定です。

## Who is the BEST ? パフォーマンス選手権

毎年恒例行事となったサーカスチャンピオンシップに、5つの州から94人の子どもが参加しました。その中には、各地のMMCCのプログラムに参加している障害をもった子どもたちも多かったです。この大会は公立学校の夏休み期間中に合わせて行われ、テレビでも大きく取り上げられています。同時に、初の子ども演劇フェスティバルも開催しました。平和と友情をテーマに子どもたち自身がストーリーや演出を考えて、公演を成功させました。このカブールでの一大イベントに触発され、その1ヶ月後、バーミヤンMMCCでも同じようなイベントを開催し、こちらも恒例となっている国際平和デーのイベントに出演しました。日頃の練習の成果もあってか、子どもたちは思い切りの良いパフォーマンスで大人たちを驚かせました。なにより、大人たちに認めてもらうことは、大きな自信につながり、新たな目標を作るきっかけにもなっています。

## 世界のアーティスト が支えるMMCC



ケニア人のジェームスさんとデンマーク人のエスペンさんが、カルチャーセンターの子どもたちを対象にワークショップを行いました。ヨーロッパの子どもサーカス組織からの寄付で新しいサーカステントが作られ、そこでエスペンさんのワークショップを修了した子どもたちが、夏の公演を行い、すばらしいアクロバットパフォーマンスを披露しました。長くMMCCの芸術監督を務める、アメ

リカ人のセス・ブルームさんは、大人たちの移動サーカス団の指導にあたっています。最初の頃は意見が合わず、とっくみあいのケンカになったこともありますが、そんな出来事を経て、今の信頼関係があると思います。当時はハラハラしたものです。

クリスティーナ・ギャルソンさんは、ヘラートとカブールの女の子たちにとってもステキなワークショップを行いました。女性への教育サポートはまだ不足しており、こうしたワークショップを今後も展開していく予定です。



▲天井に吊した布を使った練習



▲各種目のトロフィーの前で



▲女子演劇部門の入賞者



▲表彰式の後で、入賞者挨拶



▲準備体操



▲自作演劇の発表



▲審査員には教育省関係者も

## MMCCってなに？初めて聞いたよ？なにをやってるの？という方へ♪

日本のみなさん！初めまして！アフガニスタンMMCCです。わたしたちはアフガニスタンで設立されたNGOなので、海外に母体を持っていません。しかし、最初からのメンバーの中に、デンマーク人と日本人がいました。その後不思議な縁で、日本にたぐさんのトモダチができました♪このニュースは、そんな日本にいるトモダチが私たちの活動を紹介するために創ってくれたものです。せっかくなので読んでいただい

るので、少しでも私たちの活動を知ってもらい、もし、気に入ってくれたら私たちの活動を支えるサポーターになってくれませんか？ニュースを読んでもわからないこととか、もっと知りたいことがあったら、日本にいるトモダチなんでも聞いてください。遠いところにいるけど、私たちはいつも一緒に活動しています！！

アフガニスタンでは大きく次の4つのプログラムを行っています♪

## 移動サーカス (モバイルサーカス)

アフガニスタンの地方の村々を回り、教育的な内容のパフォーマンスを行い、字が読めない子どもたちにも、平和教育、衛生教育、地雷回避教育といった、生活に必要な知識を伝えています。※写真は「手を洗おう！」



## 子どもサーカス イタリアツアー

2010年12月～翌1月、子どもたち11人とスタッフ3人のチームでイタリアツアーを行いました。学校を訪問してアフガニスタンの伝統的な踊りを一緒に踊るなど交流し、パフォーマンスも行いました。パフォーマンスの内容は、日本公演でもおなじみのパワフルキッズや力自慢、組み体操など様々。アフガニスタンの伝統や暮らしなどを盛り込んだ演目もありました。期間はそれほど長くなく、シンプルな内容でしたが、陽気なイタリアの友人たちと打ち解け、楽しい時間を過ごせたようです。なにより、子どもたちにとって日頃の努力がこういった形で評価され海外へでかけていくことは、本人の自信はもとより、ほかの子どもたちのモチベーションを大いに高揚させることができます。



▲ステージでの挨拶



▲伝統的なダンスやスポーツで交流

## もうすぐ総観客数200万人



2010年の1年間でMMCCは、アフガニスタン各地で15万人以上の人たちに公演やワークショップを行いました。そして、なんともうすぐこれまでの総観客・参加者数が200万人に到達します。カブール、ヘラート、バーミヤン、ゴールでは、MMCCのセンターで練習を重ねてきた子どもたちが地域の学校や施設でのパフォーマンス活動やワークショップを展開しています。それ以外の遠隔地域では、MMCCの大人たちで編成されているモバイルサーカスチームが公演やワークショップを行っています。2010年の地雷啓発プロジェクトは、それまでは国連の活動の一部として行われてきましたが、アフガニスタンに正式に移管されたMACCA(アフガニスタン地雷アクションセンター)と協力し、各地の学校などで、啓発活動を行いました。さらに、以前から続けている障害児向けの活動も継続しています。

## 5つの州で 子ども議会を開催

シューラとはイスラム文化伝統の集まり(会議)のことで、意見交換をし、話し合いを行い、様々なことを決定をする大切なものです。MMCCは新しいプロジェクトに取り組み、多くの地域で子どもシューラを開催しました。地方の学校や地域で開催すると同時に、カブールのカルチャーセンターで2つの子どもシューラを開催しました。カブールのシューラがほかと違った点は、政府職員やマスコミも参加し、より現実的な話し合いの中で、子どもたちの前向きで建設的な意見が飛び出し、大いに大人たちを感心させました。長く争いの歴史を持つアフガニスタンで、古くから平和に暮らすためにもっとも大切にされてきたシューラを子どもたち自身で行うことは、教育的効果はもちろんありますが、提案をそこで終わらせるのではなく、大人たちがきちんと耳を傾けることが大切です。子どもの権利を保障することはもちろん、大人たちにその意識を啓蒙することもMMCCの目的の一つです。道化のように振る舞い、注目を集め、ここでもまたひとつ、子どもたちの力を世に示すことができました。笑いの絶えないMMCCは、これからも子どもたちの未来とともにあります。

## 子どもたち自身で 楽しい教育環境を創る

MMCCのプログラムの特徴として、既存の学校や教育機関などに、創造的で新しい発想を提案することがあります。アーティストが運営するNGOというのが珍しいことでもあります。なにより想像力を生かし、かつそれが子どもたち自身の手で行われ、その効果も子どもたち自身が享受できるものであって欲しいと願っています。今回おこなわれたのは、茶色と灰色だけで作られている校舎や校庭の壁などを、自分たちで決めた色を塗り、絵をかくというもの。14の学校が参加し、色とりどりのオリジナルの学校が誕生しました。金属製の遊具にも色がつき、自分たちが手を加えたことで、よりものを大切にしようという気持ちが育ったり、学校をより好きになったり。それは、郷土を愛する心をはぐくむことにつながります。こうしたプログラムは、とてもMMCCらしいものだと思います。効果は半永久的に持続し、発展し、新たな可能性を残すものです。



## チルドレン・カルチャーセンター

15の教室を持ち、歌や絵画、サーカス、演劇、アクロバット、格闘技、英語、コーラン、手芸、工芸、文学などのクラスがあります。それぞれのクラスで様々な知識や技を身につけ、自身の可能性をのばせるような様々な工夫がなされています。広い中庭では子ども達自由に遊び回り、叩いたりどなったりする大人はいません。自由な空間は子ども達の創造性を高め、将来の可能性を広げていきます。

## ワークショップ実践！実感！実現！

実際に子どもたちの手で何かを創りあげる作業。人形劇や組体操など、かならずひとりではできない、みんなで協力し、助け合わなければならないことをやってみる。社会の中で役割を実感し、異なる部族同士でも助け合うことの大切さを学んでいます。

## ティーチャートレーニング(教員養成)

長い戦争で教育インフラの85%が破壊されました。現在も、専門的な技術をもたず教科書をただ読んでいるだけの教師も多いのです。子どもを叩いたり、罵ったりすることも多く、教師の質が大きな問題になっています。子どもの興味を引き出したりオリジナルの教材作りは、MMCCの最も得意とする分野です。各地の教育委員会などで行っています。

